

# 大学入学共通テストに挑む

# 英語・筆記

プレテスト問題 (一部抜粋)

第6問 (配点 24)

A You are preparing for a group presentation on gender and career development for your class. You have found the article below.

Can Female Pilots Solve Asia's Pilot Crisis?

[1] With the rapid growth of airline travel in Asia, the shortage of airline pilots is becoming an issue of serious concern. Statistics show that the number of passengers flying in Asia is currently increasing by about 100,000,000 a year. If this trend continues, 226,000 new pilots will be required in this region over the next two decades. To fill all of these jobs, airlines will need to hire more women, who currently account for 3% of all pilots worldwide, and only 1% in Asian countries such as Japan and Singapore. To find so many new pilots, factors that explain such a low number of female pilots must be examined, and possible solutions have to be sought.

[2] One potential obstacle for women to become pilots might be the stereotype that has long existed in many societies: women are not well-suited for this job. This seems to arise partly from the view that boys tend to excel in mechanics and are stronger physically than girls. A recent study showed that young women have a tendency to avoid professions in which they have little prospect of succeeding. Therefore, this gender stereotype might discourage women from even trying. It may explain why at the Malaysia Flying Academy, for instance, women often account for no more than 10% of all trainees enrolled.

[3] Yet another issue involves safety. People may be concerned about the safety of aircraft flown by female pilots, but their concerns are not supported by data. For example, a previous analysis of large pilot databases conducted in the United States showed no meaningful difference in accident rates between male and female pilots. Instead, the study found that other factors such as a pilot's age and flight experience better predicted whether that person is likely to be involved in an accident.

[4] Despite the expectation that male pilots have better flight skills, it may be that male and female pilots just have skills which give them different advantages in the job. On the one hand, male pilots often have an easier time learning how to fly than do female pilots. The controls in a cockpit are often easier to reach or use for a larger person. Men tend to be larger, on average, than women. In fact, females are less likely than men to meet the minimum height requirements that most countries have. On the other hand, as noted by a Japanese female airline captain, female pilots appear to be better at facilitating communication among crew members.

[5] When young passengers see a woman flying their plane, they come to accept female pilots as a natural phenomenon. Today's female pilots are good role models for breaking down stereotypical views and traditional practices, such as the need to stay home with their families. Offering flexible work arrangements, as has already been done by Vietnam Airlines, may help increase the number of female pilots and encourage them to stay in the profession.

[6] It seems that men and women can work equally well as airline pilots. A strong message must be sent to younger generations about this point in order to eliminate the unfounded belief that airline pilots should be men.

問3 In Paragraph [4], the author most likely mentions a Japanese female airline captain in order to give an example of [37].

- ① a contribution female pilots could make to the workplace
- ② a female pilot who has excellent skills to fly a plane
- ③ a problem in the current system for training airline pilots
- ④ an airline employee who has made rare achievements

# 要約活動を視野に意見伝え合う

## ■平成30年度 プレテストについて



渡邊 裕子

千葉県立千葉南高校教諭

平成30年度に実施されたプレテストにおける第2問Bの間2、3では、概要を理解した上で相反する立場の事実と意見を見極め、それぞれの意見を選択させる問題が出題されている。また、第6問Aの間3＝左図＝では本文中に書かれた例の果たす役割を推論させる問題が出題された。前者では異なる二つの意見を比較したり関連付けたりしながら読む「思考力」が求められ、後者では必ずしも本文に記載はないが、根拠となる部分を見つけ出し推論した結果や答えを導き出す「判断力」が求められている。

要約活動に慣れている、またはディベートやディスカッションを日頃から行い、多量の資料を読み込んで概要を理解したり、その中から必要な情報を取り出したりする訓練を積んでいる生徒、そしてそういった活動を通してトピックに対する自分の考えを深める訓練を積んでいる生徒にとっては比較的容易に解ける問題なのかもしれない。

しかし、これから授業を多技能統合型に変えていくことを考えた場合、要約、ディベート、ディスカッションをそのまま授業に取り入れるのは難しいと思われる。そこで、思考力、判断力を付けさせる授業のために今からできることは何か。私のこれまでの試みを紹介させていただきたい。

## ■提案授業

要約活動は、聞いたり読んだりして得た情報の概要を話したり書いたりして伝えるという、4技能が統合される活動であることから、授業に取り入れたいと考えていた。私の授業では教科書のLessonの各Partの終わりに要約を書いて発表させる活動を行っていた。何もヒントがないと難しいのでQ&A形式にし、答えをうまくつないでいくと要約になるように仕掛けたり、設定した幾つかの語彙を用いれば要約が完成するようにしたりするなどの工夫をした。改良を加えることに生徒の反応は良くなっていると思っていた。しかし、ある研修会で私の授業を見た先生からこんなアドバイスを受けた。「生徒はやらされている感じがした」と。

確かにその通りだった。活動中の生徒をよく見ると、使うように指示された語彙を本文から探し、その周辺の英文を適当につなげて書いているようであった。思考しているのではなく、ただ探している。これでは要約活動が思考力を育てる活動になっていない。同じ題材を読んで、同じような要約を完成させるわけであるから、そもそもインフォメーション・ギャップも存在しない。指導をしやすいようにするため、正解がバラバラにならないように誘導していたようなものである。要約を完成させることが活動の目的になってしまっていて、その情報を持たない第三者に伝えるという本来の目的を見失っていたことに

Warm-up	ペアでの意見交換を、パートナーを交えて数回行う。季節や行事、テキストのトピックに合った Question を選ぶ。なるべく詳しく話そうと指示をする。机間巡視の際に生徒がうまく言えない表現があることに気付いた際は全体でシェアをし、次のパートナーとのやり取りに生かせるようにする。
1st Reading	New words の確認などを行わずにまず読ませる。分からない表現があっても推測しながら読み続け、おおよその理解でも答えられる Questions、または Yes/No で答えられるような Questions を用意する。 (※Reading ではなく、教師の Oral Summary を聞いて Questions に答えさせることもある。)
Vocabulary check	概要を理解する際に不可欠と思われる語句の中から三つ、四つ選び、dialogue の中で意味を推測させる。 Ex) conform ex) A: How's your new class? Did you conform yourself to the new class? B: No, I didn't. I don't have friends who were in the same class last year. I'm not good at making friends... I need more time to conform myself to the new class.
2nd Reading	語句の確認をうけて再度テキストを読み、たいたいの概要を把握できているか、または必要な情報を取り出せるかどうかを確認するための Questions を与える。
Personalized activity	自分が気に入ったり印象に残ったりした sentences に線を引かせ、その理由を伝え合う活動である。なるべく分かりやすく、詳しく話そうと指示をする。最初は「I underlined ( ) because...」などのセンテンスパターンを与えて行っている。グループで行う場合は、ベストスピーカーを選び最後にクラス全体でシェアをする。そうすることで自分と違った発想の意見を聞くチャンスが広がり、多角的な視点で物事をとらえる力が育つと考え、生徒が活動に慣れてきたら、グループの中で司会者・パフォーマーズする人・感想を言う人・質問をする人、などの役割を与えるとディスカッションやディベートにも入りやすい。

気が付いた瞬間であった。

検討を重ね、それ以降、要約活動は一度ストップすることにした。その代わりに始めたのが、読後に本文の中から自分が気に入った箇所や印象に残った箇所に線を引き、どうしてそこに線を引いたのか、その理由をグループで伝え合う活動であった。「主人公が好きか嫌いか」を本文からその根拠となる箇所を引っ張って自分の意見と共に伝えさせる活動にしたこともあった。

この活動の良い点は、生徒が本文を読み直し、自分の意見を支える根拠となる箇所を探す活動を通して、思考力、判断力を鍛えることができること、また必ずしも正解があるわけではないので、英語の得意不得意に関係なく、生徒は間違えることに對する恐怖心を抱かずに取り組みことができるということ、そして全員が同じ意見になったり同じ箇所を根拠にしたりしてることがほとんどないため、意見交換に値するインフォメーション・ギャップを生むことができることである。上表は、思考力・判断力を育てる授業展開案である。

私がこの活動を取り入れたもう一つの理由は、生徒に日本語で書かれた小説やエッセーを読むかのように英文に向かい、自由な発想で意見交換をし、クラスメートの自分とは違った意見を聞くことを楽しんでほしいと思ったからである。また、そもそも当該パートを自分で自分の言葉で概要を表現する際に、必ずしも皆同じ完成形ではなく、人によって偏りがあったりもいらないかという思いもあった。

こうなると要約活動とはいえなくなる。しかし実際、この意見交換を通じて、友達のことを聞き新たな知識を得たことで、扱うテーマに対する理解が深まり、さらに追究してみたいと思う生徒も出てくる。これは主体的で深い学びにつながるのではないかと考える。生徒がこの活動に慣れ、「さらに追究してみたい」というレ

ベルまで達した時には要約活動を再開したい。本文のテーマに関連する文章を四つ用意し、グループのメンバーがそれぞれ違うものを読み、要約して残りの3人に伝えて共有し、また意見交換をするという活動ができるし、ディスカッション、ディベートに取り組むこともできるであろう。

最後に、生徒の英語による発話の機会を増やすために私が心掛けていたことを紹介させていただきたい。それは生徒と信頼関係を築くことであり、「ここ(教室)でなら間違ってもいいから英語で話してみよう」と生徒に思ってもらうことである。本文の内容確認のような正解が一つになりがちなQ&Aのやり取りを英語で行う場合と違い、生徒に自分の考えを英語で話してもらうためには、正確さよりも内容を重んじていることが生徒に伝わる必要がある。さらに、前回の学習指導要領改訂により「即興で表現する力の育成」が加えられたことから、これまでのように「書いてから話す」指導では即興的表現力は付かず、これまでと全く逆のアプローチ(「話してから書く」)をしなければならなかった。

簡単なメモだけで自分の意見を述べたり、準備のない状態でもある程度、自分の考えを相手に伝えたりする力を育成するよう求められたといえる。英語で発表することに対する生徒の不安が増してしまうかもしれないが、これは教える側のわれわれに求められている課題であると感じる。それは、即興的表現力を高めるための、間違いを許し合える教室の雰囲気づくりができるかということ、そして、生徒の一番身近なロールモデルとして、時に間違いながらも、教師自身がインタラクティブを楽しんでいる姿を生徒に見ることができるとかということである。主体的で深い学びとは、生徒と教師が信頼し合い、間違いを恐れる心を共に克服していく過程でつくられるのだと私は考える。

分科会 教科別の授業実践

英語

安河内先生

安河内 哲也 (東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師) 東京 福岡 名古屋 横浜 大阪 広島  
山本 崇雄 (新渡戸文化小中学校) 札幌 金沢  
富永 幸 (滋賀県立膳所高校 教諭) 神戸 千葉 / ほか

●山本先生からのメッセージ  
変わりゆく社会の中で、英語の授業をどうアップデートしていけばいいのでしょうか。本分科会では、教師が生徒に「教える」から、教師と生徒がともに「創造する」授業デザインを具体的な事例と体験を通して提案していきます。

●富永先生からのメッセージ  
生徒の心を動かす授業、生徒の目が輝く授業、生徒の思考がアクティブな授業... そんな魅力ある授業作りを大切にしながら、入試改革や次期学習指導要領の方向性を踏まえて、持続可能な授業改善を一緒に考えましょう!

国語

瀧尾先生

河口 竜行 (渋谷教育学園渋谷高校) 名古屋 広島  
瀧尾 健児 (三田国際学園高校 校長) 東京 大阪  
岩田 真志 (東京都立西高校) 大宮 横浜 / ほか

●河口先生からのメッセージ  
「国語記述式問題の採点」をテーマに、ワークショップ形式で実施します。新テストの問題について、また、そもそも授業で生徒たちが身につけるべき国語の力は何なのかについて等、参加者同士でともに考える機会としたいと思っています。

数学

鷲迫先生

酒井 淳平 (立命館宇治高校) 札幌 千葉  
鷲迫 貴司 (東山高校) 東京 福岡 堀内先生  
堀内 陽介 (広尾学園高校) 大宮 仙台  
村形 政信 (東京都立西高校) 神戸 広島 / ほか

●酒井先生からのメッセージ  
数学の授業を通じて育てたい力を考えて授業の中で実践したときに、結果的に新テストにも対応した授業になります。本分科会では新テストの傾向をふまえて、数学を通じて育てたい力や授業のあり方を考えます。

●村形先生からのメッセージ  
主体的な学びには予想外、対話的な学びには比較という観点で、普段の授業の中でのちょっとした工夫をお話しします。また大学入学共通テストに向け、定期テストに出題された問題をもちに問題作成の難しさなどもお話し予定です。

探究 new!

中島先生

中島 博司 (茨城県立並木中等教育学校 校長) 東京 福岡  
堀内 桃子・酒井 淳平 (立命館宇治高校) 大宮 金沢 / ほか

●堀内先生・酒井先生からのメッセージ  
探究の実践を進める上で、大切なのはHOWではなくWHYです。本分科会では文科省の指定を受けて取り組んだ実践を紹介しつつ、なぜ探究なのかについて考え、これからますます重要になる探究の本質に迫ります。

2019 第6回

本番間近! 大学入試改革

# 夏の教育セミナー

お申込み受付中!

主催: 日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

基調講演 大学入試改革の講演

錦 泰司 東京 大阪  
文部科学省大学入試室 室長

義本 博司 福岡 名古屋 横浜 仙台 千葉  
独立行政法人大学入試センター 理事

白井 俊 札幌 金沢 広島  
独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括補佐官(兼)審議役

田村 学 大宮  
国学院大学 人間開発学部 初等教育学科 教授

特別講演 大学担当者による講演

東京大学 理事・副学長 福田 裕穂 東京 / 一橋大学 学長補佐 三隅 隆司 東京 / 早稲田大学 入試開発オフィス長 小森 宏美 東京 / 慶應義塾大学 入学センター部長 寺島 博之 東京 / 京都大学 高大接続・入試センター 副センター長 木南 敦 大阪 / 大阪大学 副学長 豊田 敏聡 大阪 / 関西学院大学 アドミッションオフィサー 尾木 義久 大阪 / 同志社大学 入学センター所長 多久和 英樹 大阪 / 北海道大学 理事・副学長 長谷川 晃 札幌 / 東北大学 理事・副学長 滝澤 博胤 仙台 / 千葉大学 副学長 佐藤 智司 千葉 / 埼玉大学 理事・副学長 重原 孝臣 大宮 / 九州大学 理事・副学長 丸野 俊一 福岡 / 名古屋大学 副総長 佐久間 淳一 名古屋 / 横浜国立大学 理事・副学長 根上 生也 横浜 / 金沢大学 理事・副学長 柴田 正良 金沢 / 神戸大学 理事・副学長 岡田 章宏 神戸 / 広島大学 理事・副学長 宮谷 真人 広島 / ほか

講演者情報は随時更新します。詳細はホームページをご覧ください。

夏の教育セミナー summer-seminar.com

夏の教育セミナー

検索

